# ワンダフル ライフ
# 盲導犬になっても なれなくても幸せ

**盲導犬という使命をになって生まれる犬がいます。生まれて2ヶ月頃から1歳まで一般家庭で育てられ、1歳になると盲導犬訓練所で様々な訓練を行い、試験に合格した犬だけが盲導犬になれます。**

## ●盲導犬(Guide dog)とは

目の不自由な方の目的地までの移動を安全にサポートする補助犬。パピーウォーカーのもとで育てられたのち、厳しい試験に合格した犬のみが盲導犬となり、合格率は全体の約3割程度と難関。

## ●盲導犬に向いている犬種

ラブラドール・レトリバー、ゴールデン・レトリバー、ラブラドールとゴールデンのミックス

## ●パピーウォーカー

盲導犬候補の子犬をおよそ10ヶ月間、家族の一員として迎え育てるボランティア。愛情をたっぷり注ぎ人と生活をする喜びを感じさせるとともに、日常生活にある電車などの音、雨などの天候、人ごみなど人間社会にある様々なことを体験させます。

なお、パピーウォーカーは誰でもなれるのではなく、「室内飼育ができる」「犬のしつけ」「食事や注射などの費用を負担」「車を所有している」などの条件があります。

## ●ハーネス

盲導犬が体につけている白い胴輪をハーネスといい、盲導犬の動きを使用者に伝えます。例えば、ハーネスが少し上に動いてとまると、のぼりの段差か階段があるというように、ハーネスの動きから伝わる情報が、目の不自由な方の安全な歩行を支えます。

## ●キャリアチェンジ犬

盲導犬の試験で不合格となった犬は、〝キャリアチェンジ犬〟と呼ばれます。活発すぎたり、人や動物を怖がるなどが不適格とされただけで、犬としてダメというわけではありません。

キャリアチェンジ犬は、一般家庭へ譲渡されるほか、介助犬や聴導犬、セラピードックとしての人生を歩みます。

「ジェードおはよう」と、子どもたちの声が響きます
※ジェードの写真は表紙にも掲載されています。

■広島県福山市の**藤田和彦**(65)・**泰子**(63)さんご夫妻は、新聞で読んだ「パピーウォーカー」の記事に心を動かされ、夫婦二人三脚でパピーウォーカーとして盲導犬候補の子犬を20年にわたり育てています。これまで育てた犬は21匹にのぼり、そのうち12匹が盲導犬となりました。

また、高齢となり盲導犬を引退した犬を、育ての親として自宅に引き取っています。4年ほど前には、パピーウォーカーとして最初に送り出した「ショコラ」を看取りました。今は、「ラム」と「ディラン」の2匹が老後を過ごしています。

「子犬を育てるのではく、自分が育てられているようです」と和彦さん。泰子さんも「いろいろな人との縁が生まれました。この先も続けていきたい」と、ご夫婦の子育てならぬ〝犬育て〟はこれからも続きます。

■ラブラドール・レトリバーの「**ジェード**」は、残念ながら盲導犬の試験では不合格となりましたが、**永田菊寿**さん(静岡県牧之原市)に引き取られ、キャリアチェンジ犬として活躍しています。

永田さんは「社会で活躍してほしい」との思いから、ジェードとともに毎週月曜の朝、小学校の校門前で子どもたちの登校を見守る活動を始めました。つぶらな瞳のジェードは、子どもたちの人気者。1年生から6年間お世話になった感謝にと、ジェードは卒業式にも招待されました。

9歳と高齢にはなりましたが、いつまでも元気で子どもたちの登校を見守ってもらいたいものです。